

都市再生整備計画 事後評価シート

多治見駅周辺地区

令和3年 3月

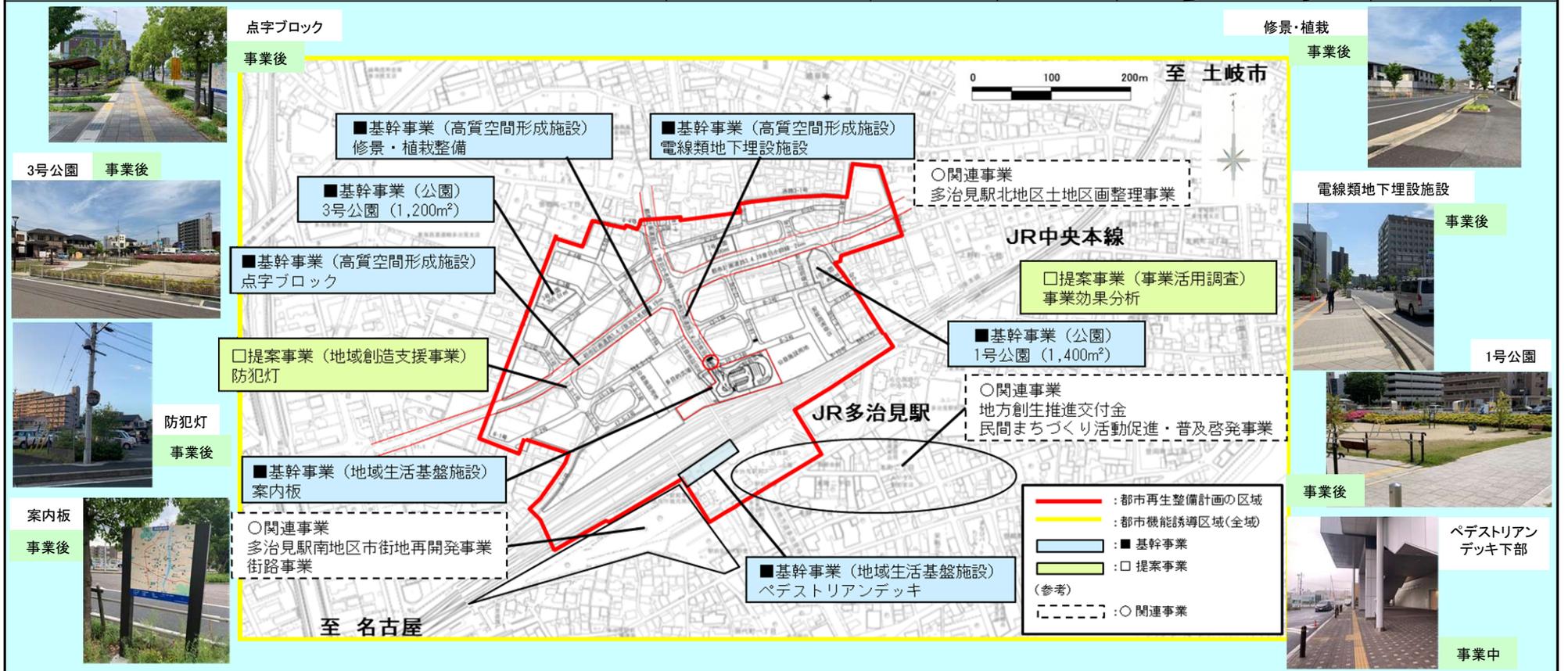
岐阜県多治見市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	多治見市		地区名	多治見駅周辺地区			面積	15ha	
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	646百万円	国費率	0.41			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 公園(1号公園、3号公園)、地域生活基盤施設(案内標識整備(案内板)、高質空間形成施設(緑化施設等-修景・植栽整備)、高質空間形成施設(障害者誘導施設-点字ブロック)、高質空間形成施設(電線類地下埋設施設-多治見駅北地区))								
			提案事業	地域創造支援事業(照明施設(防犯灯))								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名:事業箇所名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	-		-			-			
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(人工基盤) ベデストリアンデッキ		地区内における歩行者の安全かつ円滑な移動に資するため。			目標達成を確実にするための事業であり、数値目標への影響はない。			
			提案事業	事業活用調査(事業効果分析)		本計画の事業効果を分析し、事後評価を行うことにより、本計画の実施内容を的確に評価するため。			目標達成を確実にするための事業であり、数値目標への影響はない。			
交付期間の変更		当初変更	平成28年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		地域生活基盤施設(人工基盤) ベデストリアンデッキ 目標達成を確実にするための事業であり、数値目標への影響はない。						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
	指標1	居住人口	人	1,326	H27	1,379	R2	-	1,349	△	あり なし ●	令和3年
	指標2	地区内店舗数	店舗	13	H27	16	R2	-	27	○	あり なし	令和3年
	指標3	歩行者数	人	973	H27	1,050	R2	-	1,363	○	あり なし	令和3年
	指標4	商店街への新規出店数(営業店舗数)	営業店舗数/年	8	H29	10	R2	-	7	×	あり なし ●	令和3年
	指標5	休日歩行者通行量	人/日	4,858	H29	5,029	R2	-	4,211	×	あり なし ●	令和3年
	指標6	中心市街地居住人口	人	8,310	H29	8,562	R2	-	8,387	△	あり なし ●	令和3年
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1	居住満足度	%	73.6	H26			-	85.9		道路空間の緑化、無電柱化、公園整備等の一体的な整備により、駅前付近にふさわしい連続性のある緑あふれる空間が確保されたため、H26年当時と比べ良好な住環境が形成されてきたと感じる住民が増加したと考えられる。	令和3年
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺であることから、通勤通学による歩行者はもちろん、近隣からの買い物客を目的とする人の来訪が増え、特に高齢者の買い物客が多く確認された。 駅近くに立地する市役所の前の通りでは、市役所利用はもちろん近くの喫茶店や産直市場に立ち寄る人が増え、来訪者増加につながっている。 											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-	
	住民参加プロセス		多治見まちづくり株式会社による 虎渓用水広場におけるイベントの開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					今後も多治見まちづくり株式会社と連携し、虎渓用水広場等で開催されるイベント等を通じて、地域住民の参加促進を図り、賑わいや交流を盛んにすることで地区内の活性化を図る。	
持続的なまちづくり体制の構築		多治見まちづくり株式会社を都市再生推進法人に指定			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	多治見市における都市開発及び観光開発や、中心市街地の活性化等に関する企画立案及びその実施事業等において、市は多治見まちづくり株式会社との連携も含め後方支援を続けていく。	

様式2-2 地区の概要

多治見駅周辺地区(岐阜県多治見市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値		
大目標 心地よい風景があり、そして、にぎわいのある多治見の新たな顔づくり 目標1 商業機能・居住機能が調和した安全で快適な環境の形成 目標2 誰もが利用しやすい交通空間の創出 目標3 駅前にあふさわしい、個性ある景観の創出	居住人口	単位:人	1,326	H27	1,379	R2	1,349	R2	
	地区内店舗数	単位:店舗	13	H27	16	R2	27	R2	
	歩行者数	単位:人	973	H27	1,050	R2	1,363	R2	
	商店街への新規出店数 (営業店舗数)	単位: 営業店舗数/年	8	H29	10	R2	7	R2	
	休日歩行者通行量	単位:人/日	4,858	H29	5,029	R2	4,211	R2	
	中心市街地居住人口	単位:人	8,310	H29	8,562	R2	8,387	R2	
	居住満足度	単位:%	73.6	H26			85.9	H30	



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・住む場所としての魅力のある、駅北側中心市街地の骨格形成が課題であったが、公園整備、修景・植栽整備により、地区内の緑地が拡充され、地区一体に憩いの場が創出された。 ・駅前の回遊性を向上するため、道路の無電柱化や案内板・点字ブロックの設置等により、都市基盤が整備され駅前の安全性や快適性が確保された。 ・市の玄関口としての魅力を向上させるため、修景・植栽整備による道路空間の緑化の推進や、無電柱化整備により、地区一帯の景観整備が実施され、駅北側の拠点景観が形成できた。 ・今後は、駅南地区における再開発事業等による整備を進め、駅北側と一体的に駅前の回遊性や拠点性を高めていく必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・多治見駅北側で整備された道路・公園・広場等の公共空間の有効活用により、さらなる賑わいの創出を図る。 ・多治見駅南の市街地再開発事業等により、虎渓用水広場でのイベント開催等と合わせ、賑わいや交流を盛んにすることで地区内の活性化を図り、交流・定住人口の増加を目指す。 ・駅南地区では、ペDESTリアンデッキ及び駅南交通広場の整備を進め、駅周辺の回遊性の向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		指標1: 居住人口 指標2: 地区内店舗数 指標3: 歩行者数	指標1: 居住人口 指標2: 地区内店舗数 指標3: 歩行者数 指標4: 商店街への新規出店数(営業店舗数) 指標5: 休日歩行者通行量 指標6: 中心市街地居住人口	地方再生コンパクトシティのモデル都市応募に伴い、関連事業として地方創生推進交付金及び民間まちづくり活動促進・普及啓発事業を追加し、それに伴い新たに指標を設定。(第2回変更)
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他(交付期間の変更)	●		平成28年度～平成30年度	平成28年度～令和2年度	新たに追加する予定のペDESTリアンデッキ及び交通広場の整備事業の執行については、多治見駅南地区市街地再開発事業の進行にあわせて行う必要があり、平成31年度以降の執行見込みとなるため。(第1回変更)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	照明施設(防犯灯)	15	—	1	—	事業費の減少(第6回)	事業費の変更のみであり、指標への影響はない。	●	
	駅南交通広場	—	—	—	—	事業の追加(第1回) 完了年度の変更(第3回) 事業の削除(第6回)	事業の削除の為、数値指標への影響はない。		●
事業活用調査	事業効果分析	—	—	3	—	事業の追加(第4回)	本計画の実施内容を的確に評価するための事業であり、指標への影響はない。		●
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
土地区画整理事業		多治見駅北地区	11,970	11,350	平成11年度～平成30年度	平成11年度～平成31年度	事業完了	
市街地再開発事業		多治見駅南地区	13,810	18,055	平成28年度～令和2年度	平成28年度～令和4年度	事業中	
街路事業		多治見駅南地区	—	682	—	平成29年度～令和2年度	事業中	
地方創生推進交付金		多治見駅周辺地区	—	25	—	平成30年度～令和2年度	事業完了	
民間まちづくり活動促進・普及啓発事業		多治見駅周辺地区	—	6	—	平成30年度～令和2年度	事業中	次期計画において、「官民連携まちなか再生推進事業」として継続

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	見込み	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	居住人口	人	令和2年4月 多治見市町丁目別人口データより地区内に含まれる町丁目データ(音羽町1丁目、2丁目、白山町1丁目、2丁目)を抽出して当該地区の居住人口として評価値とする。	-	-	1,326	H27	1,379	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	1,349	事後評価		
指標2	地区内店舗数	店舗	多治見駅周辺地区内に立地する商業系店舗、事務所の数を評価値とする。	-	-	13	H27	16	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定	●	27	事後評価		
指標3	歩行者数	人	多治見駅北土地区画整理事業地区内にある多治見駅前交差点で実施した1日(9:00-12:00、14:00-17:00)の歩行者交通量調査(令和2年10月15日実施)で計測した集計結果を評価値とする。	-	-	973	H27	1,050	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定	●	1,363	事後評価		
指標4	商店街への新規出店数 (営業店舗数)	営業店舗数/年	産業観光課で確認した中心市街地商店街における新規出店数(営業店舗数)を評価値とする。	-	-	8	H29	10	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	7	事後評価		
指標5	休日歩行者通行量	人/日	産業観光課で実施する地方再生コンパクトシティ地区内6地点での休日歩行者通行量調査(休日9時~18時)結果を評価値とする。	-	-	4,858	H29	5,029	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	4,211	事後評価		
指標6	中心市街地居住人口	人	産業観光課で確認した地方再生コンパクトシティ地区の居住人口を評価値とする。	-	-	8,310	H29	8,562	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	8,387	事後評価		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	多治見市の人口が減少傾向にある中、市人口より高い比率で維持していたが、目標を達成するまでには至らなかったため、△とした。	—
指標2	地区内の店舗数が増加傾向であり、目標値に達していることから、○とした。	—
指標3	歩行者通行量調査の結果、通行量が増加傾向にあり、目標値に達していることから、○とした。	—
指標4	商店街への新規出店数(営業店舗数)が、従前値より減少傾向にあるため、×とした。	—
指標5	中心市街地エリアでの休日歩行者通行量調査の結果、従前値より通行量が減少傾向にあるため、×とした。	—
指標6	多治見市の人口が減少傾向にある中、市人口より高い比率で維持していたが、目標を達成するまでには至らなかったため、△とした。	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)	
				基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	居住満足度	%	平成24年から2年毎に実施して いる、市民意識調査結果から 「多治見市の住みごころ」につい ての設問に対して、小学校区別 に集計されたデータより多治見 駅周辺地区(精華小学校区)の 「住みやすい」「どちらかといえ ば住みやすい」と回答した人の 割合を求めた。	-	-	73.6	H26	モニタリング	-	-	指標1を補完し、「安全で快適 な住環境」が創出されたことを、 5年前と比べた多治見駅周辺地 区の住環境の変化を評価する ため。	-
								事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・駅周辺であることから、通勤通学による歩行者はもちろん、近隣からの買い物客を目的とする人の来訪が増え、特に高齢者の買い物客が多く確認された。
- ・駅近くに立地する市役所の前の通りでは、市役所利用はもちろん近くの喫茶店や産直市場に立ち寄る人が増え、来訪者増加につながっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
多治見まちづくり株式会社による 虎渓用水広場におけるイベントの開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】平成28年度：20回、平成29年度：18回、平成30年：6回 【実施時期】平成28年度～令和2年度 【実施結果】多治見まちづくり株式会社により、平成28年から例年、夏季ビアガーデンを開催している。開催時期は7月の第1週～9月の第1週にかけての毎週金・土曜日の17:00～21:30実施。また、多治見市倫理法人会、多治見ロータリークラブ、多治見陶都ライオンズクラブによる清掃活動イベントにおいては地元の高校生なども含め、40～50人が参加している。	今後も多治見まちづくり株式会社と連携し、虎渓用水広場等で開催されるイベント等を通じて、地域住民の参加促進を図り、賑わいや交流を盛んにすることで地区内の活性化を図る。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
多治見まちづくり株式会社を都市再生推進法人に指定	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	多治見市や地元経済界等の出資により会社設立。平成30年12月20日付の申請により、都市再生特別措置法に基づいて、都市再生推進法人として指定された。	多治見まちづくり株式会社 【業務内容】 ・多治見市における都市開発及び観光開発、土地及び建物の有効利用、中心市街地の活性化等に関する調査、企画立案及びその実施 ・商店街、商店の販売促進のための共同事業等商業振興を図るための企画、運営、指導及び情報提供等	多治見市における都市開発及び観光開発や、中心市街地の活性化等に関する企画立案及びその実施事業等において、市は多治見まちづくり株式会社との連携も含め後方支援を続けていく。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	産業観光課、市街地整備課	令和2年11月27日	市街地整備課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	指標3	その他指標1		
指標名		地区内店舗数	歩行者数	居住満足度		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	公園(1号公園)	◎	土地区画整理事業による地区内での一体的な公園整備や、修景・植栽整備、道路の無電柱化により、駅周辺の居住環境が充実するとともに、駅前に魅力的な景観と、憩い・交流の場が創出され、店舗数増加につながったと考えられる。	○	道路の無電柱化や案内板・点字ブロックの設置により、虎渓用水広場や市庁舎を中心とした誰もが利用しやすい快適な歩行者空間が形成され、沿道の店舗等の増加と合わせ、歩行者交通量が増加したものと考えられる。	
	公園(3号公園)	◎		◎		
	地域生活基盤施設(案内標識整備(案内板))	○		◎		
	地域生活基盤施設(人工基盤)ペDESTリアンデッキ	○		○		
	高質空間形成施設(緑化施設等)修景・植栽整備	◎		◎		
高質空間形成施設(障害者誘導施設)点字ブロック	○	◎		◎		
高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)多治見駅北地区	◎	◎		◎		
提案事業	地域創造支援事業(照明施設(防犯灯))	◎		◎		◎
	事業活用調査(事業効果分析)	—		—		—
関連事業	土地区画整理事業(多治見駅北地区)	◎		◎		◎
	市街地再開発事業(多治見駅南地区)	○	○	○		
	街路事業(多治見駅南地区)	○	○	○		
	地方創生推進交付金(多治見駅周辺地区)	○	○	○		
	民間まちづくり活動促進・普及啓発事業(多治見駅周辺地区)	○	○	○		

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	虎渓用水広場等の活用により、人々の賑わいの場を創出できるような仕掛けづくりを推進し、店舗出店の促進を図る。	駅南のペDESTリアンデッキ等の整備により、駅前の車両と歩行者の動線分離を促進し、多治見駅を中心とした駅前の交通空間のさらなる充実を図る。	多治見駅南の市街地再開発事業等により、多治見駅周辺一体の住環境のさらなる向上に努めていく。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標4			指標5			指標6		
指標名		居住人口			商店街への新規出店数			休日歩行者通行量			中心市街地居住人口		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園(1号公園)	△	公園整備や修景・植栽整備により、憩い・交流の場が創出され、居住環境が充実したものの、整備内容について事業効果の即効性が高くなかったことから、目標を達成するまでには至らなかった。しかし、周辺への人口増加につながっていることが確認できており、今後地区内においても効果の波及が期待できる。	I	-	駅南地区活性化の起爆剤として期待する市街地再開発事業及びペDESTリアンデッキの完成が令和4年度に延びたことから、駅南口の来訪者・居住者の増加と合わせた駅南地区の商店街の新規出店への波及効果が見込めず、目標未達成の一要因となった。	I	-	駅南地区活性化の起爆剤として期待する市街地再開発事業及びペDESTリアンデッキの完成が令和4年度に延びたことから、駅南口の来訪者・居住者の増加と合わせた休日の歩行者通行量増加の波及効果が見込めず、目標未達成の一要因となった。	I	-	駅北地区の整備が進んだものの、駅南地区における市街地再開発事業が継続中であることから中心市街地全体への波及が弱く、目標を達成するまでの人口増加には至らなかった。しかし、中心市街地全体の人口増加は続いており、市域の人口減少が続く中、今後も市の中心拠点としての役割が期待できる。	I
	公園(3号公園)	△			-			-					
	地域生活基盤施設(案内標識整備(案内板))	△			-			-					
	地域生活基盤施設(人工基盤)ペDESTリアンデッキ	△			×			×					
	高質空間形成施設(緑化施設等)修景・植栽整備	△			-			-					
	高質空間形成施設(障害者誘導施設)点字ブロック	△			-			-					
	高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)多治見駅北地区	△			-			-					
提案事業	地域創造支援事業(照明施設(防犯灯))	△		-		-							
	事業活用調査(事業効果分析)	-		-		-							
関連事業	土地区画整理事業(多治見駅北地区)	△		△		△							
	市街地再開発事業(多治見駅南地区)	△		×		×							
	街路事業(多治見駅南地区)	△		×		×							
	地方創生推進交付金(多治見駅周辺地区)	△		△		△							
	民間まちづくり活動促進・普及啓発事業(多治見駅周辺地区)	△		△		△							

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	指標1	指標4	指標5	指標6
	駅南の再開発事業等により、拠点形成や駅前ランドマークとしての機能を高め、居住人口の維持・向上を図る。	駅南の再開発事業等により、拠点形成や駅前のランドマークとしての機能を高めるとともに、中心市街地全体への人の流れをつくる取組を行い、商店街への新規出店の増加につなげる。	ペDESTリアンデッキや駅前広場の整備等により、駅の交通結節機能を高めるとともに、商店街等でのまちづくり活動の促進を図り、歩行者通行量の増加につなげる。	駅南の再開発事業等により、拠点形成や駅前のランドマークとしての機能を高め、居住人口の維持・向上を図る。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	産業観光課、市街地整備課	令和2年11月27日	市街地整備課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
住む場所としての魅力がある、駅北中心市街地としての骨格形成	土地区画整理事業による一体的な公園整備、修景・植栽整備により、地区内の緑地が拡充され、虎渓用水広場と合わせ、地区一体に憩いの場が創出された。	もともと駅前であった駅南地区の再整備をする必要がある。	
駅前の回遊性を向上させるための、安全性や快適性の確保	道路の無電柱化や案内板・点字ブロックの設置等により、都市基盤が整備され駅前の安全性や快適性が確保された。	駅南地区にて進めている市街地再開発事業と合わせ、駅南北の回遊性の向上を図る必要がある。	
市の玄関口としての魅力を向上させるための、拠点景観の形成	これまで駅北土地区画整理事業で整備した基盤に加え、修景・植栽整備による道路空間の緑化の推進や、無電柱化整備により、地区一帯の景観整備が実施され、駅北側の拠点景観が形成できた。	多治見駅北側で事業効果が発生したので、同様にして多治見駅南側においても、再開発事業等により、市の玄関口としてのランドマーク機能を高め、駅南北を一体に捉えた拠点景観の形成を図る必要がある。	
-	-	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	中心市街地としての魅力のさらなる向上	多治見駅北側で整備された道路・公園・広場等の公共空間の有効活用により、さらなる賑わいの創出を図る。	<その他> ・虎渓用水広場等でのイベント開催の推進 ・地元有志団体等による清掃・美化活動の推進
	-	-	-
	-	-	-

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	駅周辺の都市機能の集積及び居住促進	多治見駅南の市街地再開発事業等により、虎渓用水広場でのイベント開催等と合わせ、賑わいや交流を盛んにすることで地区内の活性化を図り、交流・定住人口の増加を目指す。	<基幹事業> ・市街地再開発事業〔共同施設整備工事〕
	駅周辺の回遊性のさらなる向上	駅南地区では、ペDESTリアンデッキ及び駅南交通広場の整備を進め、駅周辺の回遊性の向上を図る。	<基幹事業> ・地域生活基盤施設〔ペDESTリアンデッキ〕 <基幹事業> ・街路事業／公共施設管理者負担金〔交通広場拡張、ペDESTリアンデッキ〕 <基幹事業> ・地域生活基盤施設〔案内板〕 <提案事業> ・地域創造支援事業〔交通広場改良〕
	-	-	-

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・駅北の基盤整備が完了し、店舗数は目標を達成したが、まだ高度利用されていない土地があるので、今後さらに進展するよう働きかけていきたい。
- ・今後の駅周辺の賑わいづくりにおいて、コロナ感染症の影響をどう考えていくかが重要である。
- ・今後、駅南市街地再開発事業完成後いかにして活用していくかが重要である。
- ・再開発区域から商店街へと人の流れを波及させていきたい。
- ・コロナ感染症の影響で、今後の出店に影響が出ないか懸念される。
- ・市内の飲食店の中には、多治見の味としてファンがいるお店も多いが、後継者問題等で継続できないケースもある。例えば親族以外の方が、新しい経営者として味を継承できるような「多治見の味戦略」的なプラットフォームができると良いのではないか。
- ・魅力のあるまちだが、市民の外の人を受け入れない気質が影響し、外に宣伝することが苦手と感じるので、積極的に外に発信していくべきではないか。
- ・多治見市は、美濃焼をはじめとした、地域特有の文化など、多様な地域資源がある。これらを活用するとともに、子育て支援の充実を図り、人口減少下でも交流し活動することで、活力のあるまちづくりにつながるとよい。
- ・コロナ禍で、リモートワークや、サテライトオフィスが注目されていることから、多治見でオフィスを構える方をターゲットに昼間人口の確保を見込めるのではないか。
- ・子育てや、高齢者への福祉とは別で、子どもから老人の間の世代の為の福祉を充実させ、精神的・身体的に障害のある方や、LGBTの方にも選択肢のある多様性のまちになっていけるとよい。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			確定値	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	居住人口	人	1,326	H27	1,379	R2	確定 見込み ●	1,349	△	あり なし ●	→	R3	評価値と同様の方法により推計し、確定値とする。	
指標2	地区内店舗数	店舗	13	H27	16	R2	確定 見込み ●	27	○	あり なし	→	R3	多治見駅周辺地区内に立地する商業系店舗、事務所の数を確定値とする。	
指標3	歩行者数	人	973	H27	1,050	R2	確定 見込み ●	1,363	○	あり なし	→	R3	評価値と同様の方法により計測し、集計結果から確定値とする。	
指標4	商店街への新規出店数(営業店舗数)	営業店舗数/年	8	H29	10	R2	確定 見込み ●	7	×	あり なし ●	→	R3	中心市街地商店街に立地する商業系店舗、事務所の新規出店数を確定値とする。	
指標5	休日歩行者通行量	人/日	4,858	H29	5,029	R2	確定 見込み ●	4,211	×	あり なし ●	→	R3	評価値と同様の方法により計測し、集計結果から確定値とする。	
指標6	中心市街地居住人口	人	8,310	H29	8,562	R2	確定 見込み ●	8,387	△	あり なし ●	→	R3	評価値と同様の方法により計測し、集計結果から確定値とする。	
その他の数値指標1	居住満足度	%	73.6	H26	/		確定 見込み ●	85.9	/	/	→	R3	評価値と同様の方法により「市民意向調査」の結果から、確定値とする。	

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	数値目標の設定に際しては、内的要因と外的要因の両面から設定を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	居住人口については、これまでの増加傾向を踏まえた数値目標の設定を行った。駅北地区では人口が増加したが、当該地区のみに限定すれば人口増には至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	駅周辺の居住環境が充実するとともに、駅前に整備された憩い・交流の場が上手く運営されていることが、店舗数、歩行者数等の指標により適切に評価できた。	計画的な都市基盤整備の推進は、多角的に評価する必要がある為、設定する指標については、社会や住民への影響度(アウトカム)を示す指標を用いて、できるだけ定量化することが望ましい。
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	広報誌の定期的な発行やコミュニティFMでの事業説明、当計画の市ホームページへの掲載等を通じて、定期的に進捗状況や計画の詳細事項等について、住民に向けて情報発信を行った。	まちづくり事業を円滑に行う上で情報提供は必須である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業期間中計6回の都市再生整備計画の変更を実施したことにより、進捗状況を確認しながら、適正に事業を進めることが出来た。	計画の定期的な見直しは、予定事業の進捗確認や事業内容の検証が出来るため有効である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

多治見駅周辺地区において、令和3年度より都市構造再編集中支援事業補助金を活用した事業の実施を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年12月9日～12月23日	令和2年12月9日～12月23日	担当課への 電話、ファックス、Eメールなど	市街地整備課 (都市再生整備計画事業 業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市街地整備課窓口で閲覧	令和2年12月9日～12月23日	令和2年12月9日～12月23日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	松本 直司 (名古屋工業大学名誉教授)	令和3年1月21日	市街地整備課 (都市再生整備計画事業 主管課)	多治見市都市再生整備 事業(まちづくり交付金) 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	宮浦 哲也 (多治見市商工会議所専務理事) 柴田 雅也 (多治見市議会議員) 小林 八智子 (市民) 山下 真美子 (市民) 飯田 静香 (市民)				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	①指標1 居住人口について、目標未達成だが、マンションの入居開始が評価時期より遅れていることを踏まえると、時間の問題であり、達成と考えても問題ないと考えられる。 ②指標3 歩行者数について、歩行者の詳細な情報(通勤・買い物、虎溪用水広場等)があるとより適切な評価ができるのではないかと。 ③指標4 商店街への新規出店数(営業店舗数)について、 ・新規出店数も大事な指標だが、出店後に継続して営業していただくことが重要である。そのことを勧奨すると、評価が難しいところがある。 ・空き店舗となった場所に、新たに入居すると新規出店数としてカウントできる。営業店舗が減らないという視点では、良い指標と考えられる。 ④指標5 休日歩行者通行量について、定点における歩行者通行量を計測するだけではなく、歩行者の歩行経路まで把握できるような計測をすれば、今後のまちづくりに活かすことができるのではないかと。 ⑤指標6 中心市街地居住人口について、市内転居という形で中心市街地に移り住む方が多いと聞く。市外からの転入を促すことが必要ではないかと。 ⑥指標1～3 商業施設や医療機関も充実してきて大変利便性が高まり、指標としても問題ない。 →①～⑥について、今後のまちづくりを検討する上での参考とする。
実施過程の評価	・「多治見まちづくり株式会社(多治見TMO)」が、商店街の空き店舗を所有者から借り上げリニューアルし、新規出店者を誘致する手法で大きな成果を挙げており、賑わいの創出に大変貢献している。
効果発現要因の整理	・駅北は、市街地整備が進み、街並みが良くなったことで、商業施設や医療機関も充実してきて大変利便性が高まっている。また虎溪用水広場が高校生や子どもたちの憩いの場となっている。 ・駅南は、「多治見まちづくり株式会社(多治見TMO)」が、商店街の空き店舗を所有者から借り上げリニューアルし、新規出店者を誘致する手法で大きな成果を挙げており、賑わいの創出に大変貢献している。
事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、ホームページ及び窓口閲覧により公表されたことが確認された。
その他	・コロナ禍のため、適正な評価がしにくいところもある。 →次年度計画するフォローアップにおいて、コロナ禍の状況に留意して調査等を実施する。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくりの方策として事務局から提示のあった、「駅南の市街地再開発事業をしっかりと完成させ、既に整備が完了している駅北と相まって、賑わいや交流を盛んにし、交流、定住人口の増加を目指す」ことについては、妥当である。
	フォローアップ	・全ての事業が完了した後、令和3年度においてフォローアップを実施することが確認された。
	その他	①市内の飲食店の中には、多治見の味としてファンがいるお店も多いが、後継者問題等で継続できないケースもある。例えば親族以外の方が、新しい経営者として味を継承できるような「多治見の味戦略」的なプラットフォームができると良いのではないかと。 ②魅力のあるまちだが、市民の外の人を受け入れない気質が影響し、外に宣伝することが苦手と感ずるので、積極的に外に発信していくべきではないかと。 ③多治見市は、美濃焼をはじめとした、地域特有の文化など、多様な地域資源がある。これらを活用するとともに、子育て支援の充実を図り、人口減少下でも交流し活動することで、活力のあるまちづくりにつながるとよい。 ④コロナ禍で、リモートワークや、サテライトオフィスが注目されていることから、多治見でオフィスを構える方をターゲットに昼間人口の確保を見込めるのではないかと。 ⑤子育てや、高齢者への福祉とは別で、子どもから老人の間の世代の為の福祉を充実させ、精神的・身体的に障害のある方や、LGBTの方にも選択肢のある多様性のまちになっていけるとよい。 →①～⑤について、「添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見」に反映した。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画

多治見駅周辺地区(第6回変更)

岐阜県 多治見市

令和2年9月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	岐阜県	市町村名	多治見市	地区名	多治見駅周辺地区	面積	15 ha
-------	-----	------	------	-----	----------	----	-------

計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標

- 大目標 心地よい風景があり、そして、にぎわいのある多治見の新たな顔づくり
 目標1 商業機能・居住機能が調和した安全で快適な住環境の形成
 目標2 誰もが利用しやすい交通空間の創出
 目標3 駅前にふさわしい、個性ある景観の創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 急激な人口減少、少子化、高齢化の進行に伴う厳しい財政状況下で、市街地の拡散や市街地の低密度化により、市民の生活を支えるサービスの提供が困難な状況になることが予想されていることから、持続可能な都市構造への転換を図るため、拡散したまちをコンパクトにすることで人口密度を維持するとともに、都市への投資効果を高める必要がある。そこで、①中心拠点と地域拠点への都市機能の誘導、②拠点を中心とした公共交通利便性の高い地域への居住の誘導、③拠点間をつなぐ基幹的な公共交通ネットワークの維持・構築、の3つの方針を定め、中心市街地と郊外地域が連携したネットワーク型コンパクトシティの実現を目指す。

まちづくりの経緯及び現況

本市は、岐阜県の南南東に位置し、JR中央線・太多線、中央自動車道が市の東西を走るとともに、東海環状自動車道の開通等、住環境に加え企業立地としての利便性も向上しており、東濃地方の産業、経済、文化の中心的役割を担っている。
 多治見駅周辺地区(以下「本地区」という)は、JR多治見駅を境界に駅南の旧市街地とともに中心市街地を構成する地区となっており、市役所等の都市機能が立地する本市の中心的役割を担う地区である。
 本地区では、平成18年度から進められている駅北土地区画整理事業により、駅前の宅地、道路等の都市基盤整備が進められるとともに、駅南北をつなぐ橋上駅舎・南北連絡自由通路の整備による交通結節点の機能強化が図られるなど、市の集約型都市構造の核となるエリアの創出に向けた取組が進められている。
 また、平成26年度からは多治見駅南地区において市街地再開発事業の実施に向けた取組みを開始し、駅周辺地区のさらなるにぎわい創出を目指して進めているところである。
 しかし、土地区画整理による都市基盤の整備は進んでいるものの、駅前のにぎわいを促すために必要な歩行環境や駅前としてあるべき景観等の整備が進んでいない状況である。
 このため、策定を予定している立地適正化計画において、多治見駅を中心に多様な機能が集積する本地区を都市機能誘導区域として位置付け、拠点的都市機能の誘導を図るとともに、多治見らしい個性のある景観の創出や誰もが利用しやすい動線の確保により、駅前にふさわしい安全で快適な駅前拠点の形成を促進する。

<これまでのまちづくりの取り組み>

- ・平成18年度から、本地区と太平公園を含む「多治見駅周辺地区」において、まちづくり交付金制度を活用した事業を展開した。これにより、安全で快適な都市環境の創出に向けた多治見駅北土地区画整理事業による道路、公園・広場等の整備や、利用しやすい交通環境の創出のための駅周辺のアクセス道路及び駅南北自由通路の整備、さらに、にぎわい拠点の創出にむけた交流施設の整備等が図られた。
- ・平成23年度から、多治見駅北土地区画整理事業地区を中心とした「多治見駅周辺地区」において、社会資本整備総合交付金を活用した事業を展開した。これにより、JR多治見駅の駅前特性を活かした居住・商業・業務機能が調和する安全で住みよいまちづくりに向けて、土地区画整理事業や道路、駅前広場等の整備などが進められ、多治見の顔としての拠点づくりと住環境の創出等が図られた。

課題

- ①住む場所としての魅力がある、駅北中心市街地としての骨格形成
- ②駅前の回遊性を向上させるための、安全性や快適性の確保
- ③市の玄関口としての魅力を向上するための、拠点的景観の形成

将来ビジョン(中長期)

- ・第7次総合計画
 中心市街地と郊外団地、地場産業と新規産業など相対するもの両方を元気にする「まるごと元気！多治見」をキーワードとした視点で、多様な主体が繋がってまちづくりを進めることで、住み続けられる(住み続けたいと感じる)まちの達成を目指している。特に、駅周辺地域は、土地区画整理事業や市街地再開発事業による土地の高度利用を促し、にぎわいを創出する取組みを進めるよう位置づけられている。
- ・都市計画マスタープラン
 多治見駅周辺地区を含む中心市街地エリアにおいて、「多くの人が集い楽しむまちづくり」をテーマに、集約型都市構造の核となるエリアを目指したまちづくりの展開や、中心市街地の再生・活性化を軸に都市機能施設を効率よく配置するとともに、安全で快適な交通環境・生活環境の形成を目指している。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

本地区は、JR多治見駅を中心とした中心市街地にあたる都市機能誘導区域内の中心拠点として位置付けられており、行政・交通・商業・金融などの中心拠点区域である。引き続き、多治見市の「まちの顔」となる中心拠点であるため、都市機能を誘導するとともに、安心・安全に生活しやすい居住環境づくりを目指す。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

行政・教育文化・商業・金融・福祉施設等様々な機能が集約している中心拠点である本区域においては、今後も引き続きこれらの機能を維持しつつ、さらに商業機能を発展させることにより、より一層のにぎわいのある中心市街地の形成を目指す。また、道路等の基盤を整備することにより、歩行者が安心・安全に通行できる住みよいまちなみ環境を整備することにより、中心市街地への居住誘導を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

多治見駅南地区第一種市街地再開発事業(多治見駅南地区)
多治見駅南地区市街地再開発((都)多治見大畑線)

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
居住人口	人	多治見駅周辺地区の居住人口	安全で快適な住環境の形成、誰もが利用しやすい交通空間の創出、個性ある景観の創出による、にぎわいのある多治見の新たな顔づくりの達成状況を、地区内の居住人口の変化で評価する。	1326	H27	1379	R2
地区内店舗数	店舗	多治見駅周辺地区内に立地する商業系店舗数	誰もが利用しやすい交通空間と駅前にふさわしい景観創出の達成状況を、地区内の商業系店舗数の変化で評価する。	13	H27	16	R2
歩行者数	人	多治見駅駅前交差点での1日あたりの歩行者交通量	歩行者空間を主とした整備による誰もが利用しやすい交通空間創出の達成状況を、地区内を通行する歩行者数の変化で評価する。	973	H27	1050	R2
商店街への新規出店数(営業店舗数)	営業店舗数/年	中心市街地商店街における新規出店数	商店街への出店促進やにぎわい創出による魅力あるまちづくりの達成状況を、新規出店数で評価する。	8	H29	10	R2
休日歩行者通行量	人/日	地方再生コンパクトシティ地区内6地点での歩行者通行量	多治見駅周辺地区から中心市街地商店街への回遊性、利便性が向上したことにより活性化へと繋がった達成状況を、地区内の歩行者通行量で評価する。	4858	H29	5029	R2
中心市街地居住人口	人	地方再生コンパクトシティ地区の居住人口	夏の暑さ対策事業や、にぎわい創出による移住定住促進の達成状況を、地区内の居住人口で評価する。	8310	H29	8562	R2

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 商業機能・居住機能が調和した安全で快適な住環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多治見駅周辺地区の継続的な公園整備により、中心市街地として必要な憩い・交流の場の創出を図る。 ・地区内の防犯灯の整備に加え、防災機能を保有する公園を整備することにより、地区内の防犯・防災性の向上を図る。 	<p>■1号公園、3号公園【公園/基幹事業】</p> <p>□照明施設(防犯灯)【地域創造支援事業/提案事業】</p>
<p>整備方針2: 誰もが利用しやすい交通空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の無電線化や案内板・点字ブロック、ベドストリアンデッキの設置により、市民や来訪者など、訪れる人の誰もが利用しやすく歩きやすい交通空間の整備を進める。 ・防犯灯や案内板等の設置により、駅前の安全性の高い交通空間を確保する。 	<p>■電線類地下埋設施設(電線共同溝整備)【高質空間形成施設/基幹事業】</p> <p>■障害者誘導施設(点字ブロック)【高質空間形成施設/基幹事業】</p> <p>■案内標識整備(案内板)【地域生活基盤事業/基幹事業】</p> <p>□照明施設(防犯灯)【地域創造支援事業/提案事業】</p> <p>■ベドストリアンデッキ整備【地域生活基盤施設/基幹事業】</p>
<p>整備方針3: 駅前にふさわしい、個性ある景観の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園整備や修景・植栽整備により、多目的広場との連続性のある駅前の緑あふれるうおい空間を確保する。 ・道路空間を活用した緑化の推進と無電柱化により、多治見の顔である駅前にふさわしい景観の創出を図る。 	<p>■1号公園、3号公園【公園/基幹事業】</p> <p>■電線類地下埋設施設(電線共同溝整備)【高質空間形成施設/基幹事業】</p> <p>■修景・植栽整備【高質空間形成施設/基幹事業】</p>
<p>その他</p>	
<p>【民間まちづくり活動促進事業の取組内容】</p> <p>取組内容:</p> <p>(1)空中スイカによる商店街緑陰づくり事業…空中スイカを100セット用意し、本町オリベストリート及びびながせ商店街の商店前に設置し、緑陰を作ることで、店内の室温を下げるだけでなく、歩行者が楽しく商店街を回遊できる景観づくりを行うもの。</p> <p>(2)ドライ型ミスト機の設置…区域内にドライ型ミストを設置し、夏場でも快適に回遊してもらおうことができるようにするもの。</p> <p>(3)ヤマカまなびパークオープンカフェの開設…多くの学生が学習等のために来館する施設であるヤマカまなびパークにオープンカフェを開設することにより、学生等がより快適に過ごせる空間づくりを行う。床面やテーブル等の備品には地場産業である美濃焼モザイクタイルを使用し、ボランティアスタッフを募り、市民参加で作成する。</p> <p>(4)駅北レンタサイクル事業</p> <p>(5)ストリートファニチャー整備事業…中心市街地の一角に、地場産業である美濃焼タイルを活用した多機能性のあるストリートファニチャーを整備する。掲示板や黒板など多種類の掲示機能を設け、観光客や市民に効果的に情報を発信する。</p> <p>事業期間:平成30年度～令和2年度</p> <p>事業主体:(1)(2)(4)(5)多治見まちづくり株式会社(都市再生推進法人)、(3)特定非営利活動法人Mama's Café</p>	

